

平成 25 年度事業報告

和歌山市まちづくり戦略研究会 終了報告

- 持続可能な都市構造をめざして -

研究会主査 木 下 雅 夫

【(一財)和歌山社会経済研究所 常務理事・事務局長】

<はじめに>

平成 23 年度にスタートした、「和歌山市まちづくり戦略研究会」は平成 25 年度を以って完了となった。この 3 年間で述べ 25 回、20 名（オブザーバー除く）の参加者を得て、精力的に調査・研究、議論・討議、視察、聞き取りなどを重ね、最終報告書としてとりまとめが終了した。ここに、各位への感謝と御礼を申し上げる。

以下に報告書の概要の一部を記す。

1. 研究会

<本研究会メンバー>

平成 23 年度から 3 か年にわたって取組んできたので、歴代のメンバー全員をご紹介します。

【研究会メンバー】（敬称は省略）

代表	木下 雅夫	（一財）和歌山社会経済研究所 常務理事（H23～25）
	大門 忠志	（一財）和歌山社会経済研究所 研究部長（H23～25）
	高田 朋男	（一財）和歌山社会経済研究所 研究部長（H23～25）
	中山 健太	（一財）和歌山社会経済研究所 研究部長（H23）
	畑山 善生	（一財）和歌山社会経済研究所 研究部長（H23～25）
	中平 匡俊	（一財）和歌山社会経済研究所 主任研究員（H23～25）
	松村 光一郎	（一財）和歌山社会経済研究所 主任研究員（H23）
	高木 啓江	（一財）和歌山社会経済研究所 主任研究員（H24）
	竹田 茉耶	（一財）和歌山社会経済研究所 研究員（H25）
	大泉 英次	和歌山大学経済学部 教授（H23～25）
	鈴木 裕範	和歌山大学経済学部 教授（H23～25）
	足立 基浩	和歌山大学経済学部 教授（H23～25）
	中島 正博	和歌山大学経済学部 准教授（H23～25）
	大井 達雄	和歌山大学観光学部 准教授（H23～25）
	永瀬 節治	和歌山大学観光学部 講師（H25）
	中谷 正隆	和歌山商工会議所 主任（H23～25）
	中谷 恵理子	和歌山商工会議所 主事（H23）

山本 敦子	和歌山大学経済学部 助教 (H23～24)
西山 明美	和歌山大学経済学部 事務職員 (H24)
上野 美咲	和歌山大学経済学部 特任助教 (H25)

(注：メンバーの所属・役職については参加時点)

以上の方々以外に、随時オブザーバーとして各界から多数ご参加いただいた。オブザーバーのうち複数回以上ご参加いただいた方々を次にご紹介する。

豊田 勝彦	和歌山市
永尾 吉賞	和歌山県
糺谷 昭治	NPO 法人 市民の力わかやま
志場 久起	わかやま NPO センター
田中 善行	神戸大学大学院
後藤 千晴	和歌山大学まちかどサテライト

2. 和歌山市まちづくり戦略の必要性と方向性

＜まえがき＞

序で述べた「持続可能な社会・まち」づくりを行うということは、将来に向けた和歌山市のまちづくりを戦略的に示すということである。つまり、他の地方中核都市との比較の中で、他の都市との競争に勝ち、現在和歌山市に住んでいる人はこれからも住み続けたいと思い、次の世代も住んでほしいと思い、さらに、他都市の住民や企業が和歌山市で住み、経営拠点を置く等、和歌山市への転入を希望するような魅力のあるまちにしていくということである。

そのためには、①まちづくりの基本的な構想やビジョンの確立、②まちづくりの中心的・統一的キーワードとなる基本コンセプトと全体的構想＝グランドデザイン、③実現のためのさまざまな手法や理論的支柱となる基本スキーム、④現実の地域特性に応じたゾーニングとそれらの連携機能運営となるエリアマネジメント、といった領域に、⑤現在から将来までの時間的要素や関係者合意形成へのプラットフォームづくり要素を盛り込んだ、いわゆるロードマップという、最低限五つの要素を備える必要がある。個々の領域にはそれぞれ各論的アプローチが要求されるが、本報告書ではまずその概要・基本設計の部分を示すこととする。

1. 和歌山市まちづくり戦略研究会の取組みイメージと主なキーワード

まず、和歌山市まちづくり戦略研究会の内容のイメージと主なキーワードを示す。

＜研究会発足時：平成 23 年 4 月＞

■目的

- ・和歌山市を中心とする周辺圏域における将来的な都市圏構想を構築する～和歌山グランドデザイン～
＝地方中核市を中心とした持続可能な「定住自立圏構想」につながるビジョンづくり
- ・近年の社会経済情勢を明確に厳しく認識し次世代につなげていける“真”のまちづくり
＝少子高齢化の進展や社会的活動の変革要請のもとでの社会基盤・地域特性の再構築

<イメージ>

<和歌山市まちづくり戦略研究会>



- <キーワード>
- ・定住・交流人口増加
 - ・地域活力復元(産業・コミュニティ・切り札)
 - ・安全・安心できる都市空間(防災・医療・福祉・教育)
 - ・エコシティ(環境保護・交通体系)
 - ・コンパクトシティ(都市機能効率化・拡散防止)
 - ・未来型土地利用計画(ゾーニングorモザイク)

この<イメージ>と<キーワード>を基に、生活者に視点に立ったまち＝持続可能な都市構造の形成を目指すこととした。そしてその方向性をメンバー全員による議論の結果、次のように決定した。

2. 方向性の提示

和歌山市を他都市との差別化を図るうえでどのようなまちづくりを目指すのか、明確にその方向性と実現のためのメカニズムを示す。

<平成 24 年 7 月：第 5 回研究会>

A：基本構想及び将来ビジョン

キャッチコピー	「わかやま！LOHAS '2040」
メイン	「暮らしやすくて居心地がよい、ずっと住みたいと自信を持っていえるまち」
サブ	～歴史・文化の鼓動と地域の力が ころの豊かさと未来への希望と誇りを生むまち～

-
- 「LOHAS」の定義を和歌山風(わかやま風にアレンジ)に展開
 - ・H…Healthだけでなく Human・History・Heritage
 - ・わかやま！…“和・輪・若・和香・わお！感動”を大切にする。
 - 「居心地がよい」「ずっと住みたい」「自信を持って言える」
 - ・和歌山の良さを一言でいうと／自分だけでなく他人に対しても
 - 「歴史・文化の鼓動」「心の豊かさと希望と誇り」
 - ・和歌山の良さを構成する要素として着目するものと、その結果得られる境地
 - ・今は点在。これを＜ビジョンとコンセプト＞の確立により復活・復元・よみがえり⇒Rebornへ
 - ⇒「わかやま！LOHAS！」

B：基本コンセプト及びグランドデザイン

メイン	「良質な都市・市街地ストックと生活空間の形成」
サブ	～生活者視点に立った多様な主体による「多核連携型コンパクトシティ」の形成～

-
- 人口減少、少子高齢化進展下のまちづくりの在り方
 - ・既存社会資本インフラの整備及び新規投資の選別強化と、住民の意思・権利との乖離を縮小
 - ・地域ごとの将来像の形成⇒目指すべき「地域像」を明示
 - ・個別集約型＝多核連携型
 - ・生活者重視であるが、まちづくりの主体(関係者)は公民・産官学住であることの確認

C：基本スキーム

メイン	「スマートシュリンク」と「スマートグロース」のツイン戦略
サブ	～衰退ではなく賢く縮小することへと公民協働の地域経営システムの構築～

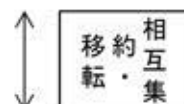
-
- 「基本コンセプト」に基づく「まちづくり」へ
 - ・面的拡大は不必要か。ならば、機能的拡大は可能か→機能面も集約化が必要
 - ・単なる衰退、縮小ではない。ならば、いかに「スマート」に「シュリンク」することを確立させるか
 - ・「機能面・効率面・価値創造面」等は社会情勢に合わせて「スマート」に進化・進展「グロース」させること。なにを「シュリンク」し何を「グロース」するか、またその手法は、合意形成はどのように成立させるのか
 - ・地域経営(マクロ&ミクロ)的に個々の地域個別特性を確立させるとともに、地域間との連携システムを構築し、公民協働での総合的な地域の力を強化する

○「スマートシュリンク(S・S)」と「スマートグロース(S・G)」のツイン戦略

- ①「S・S」推進＝「S・G」推進
 - ・移転→集約→土地利用転換
- ②対象エリアごとの「S・S」の考え方→中心市街地／市街地／郊外

i) 中心市街地	公／民主導の再開発事業
ii) 市街地	区画整理事業(街区再編)／修復型／連鎖型(面的)
iii) 郊外	集約／移転／自然復元
- ③土地利用転換への総合的アプローチ

i) WGD	本研究発表による議論形成／産官学住協働
ii) 推進主体	協議会＆部会＆事業モデル形成
iii) 合意形成	
- ④総合的ロードマップ策定
 - ・工程表のみならず、目的・手法・クリティカルパスも含む



D：ゾーニングプランとエリアマネジメント

■ゾーニングプラン

・地域特性の集約と公共交通結節点との融合で(3社7路線31駅)←交通まちづくり研究会>

・5地区割→図表1(区割り明示、名称等は暫定)

- ①まちなか城下町ゾーン
- ②和歌浦・紀三井寺／万葉ゾーン
- ③田園ゾーン
- ④加太・磯ノ浦リゾートゾーン
- ⑤学研都市ゾーン
- (⑥防災ゾーン)

・各ゾーン特性の確定
・特性にフィットする地域&地区計画とは
・「ビジョン&コンセプト」との整合性は
・スキーム策定(検討)へのステップは
(既存&組合せ／先進検討事例／課題)

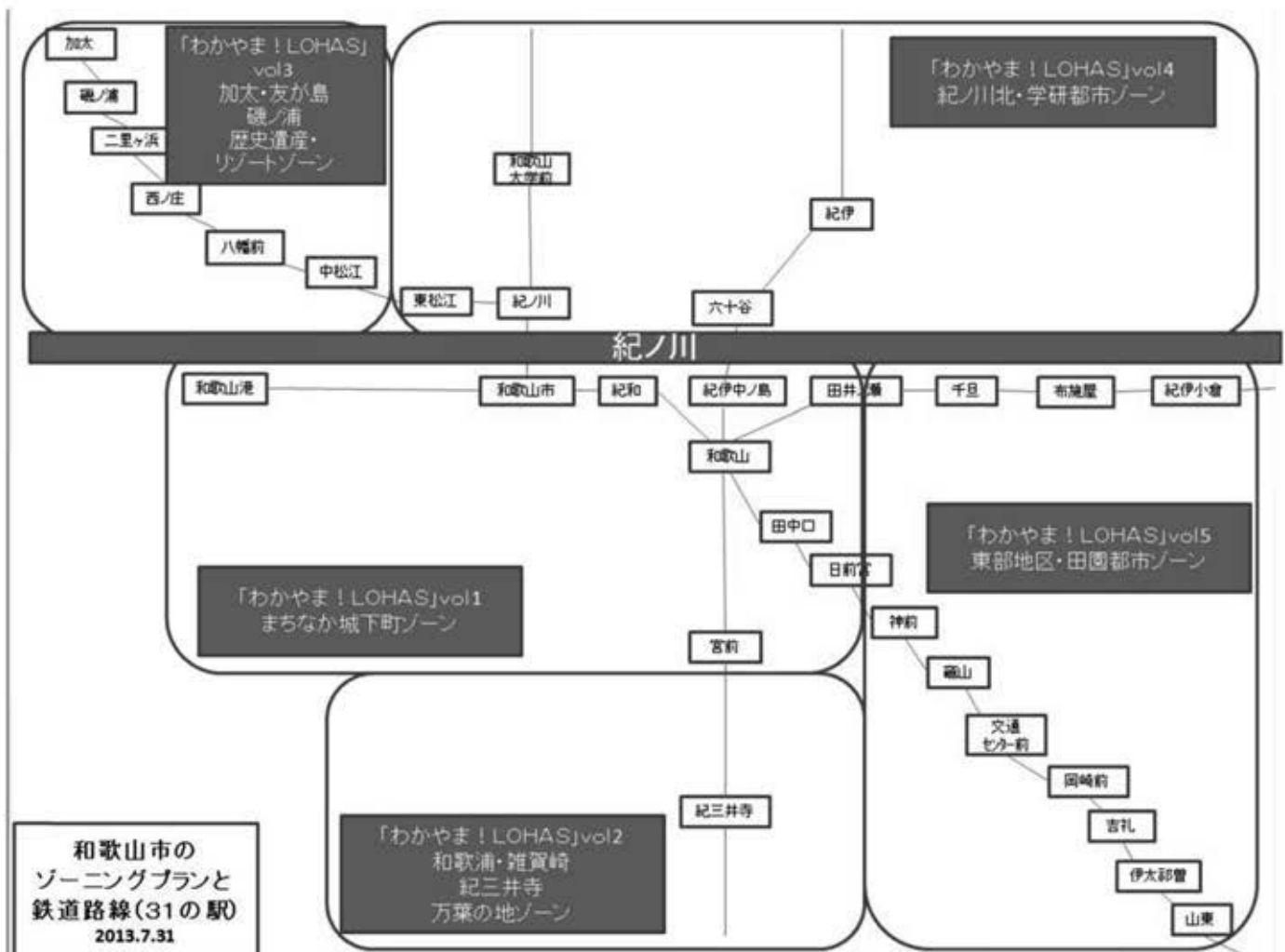
○基本的な考えかた

- ・鉄道駅中心に生活拠点の線引き範囲を決定
- ・ゾーンごとのコンパクトシティ化推進
- ・各ゾーン境界線の明示が必要

○各ゾーン特性

- ・5ゾーンの特性整理と整合性(特に交通結節点の確定とまちづくりの方向性)
- ・各ゾーンのハード面及びソフト面の現状と目指す内容との整合性(撤去・新設等)
- ・各ゾーンの住民意識を想定し納得性の確保を目指す⇒思い切った取組
- ・プラン構築のために何から手を付けていけばよいか優先順位の決定

図表 1：和歌山市のゾーニングプラン（和歌山地域経済研究機構版）



■ エリアマネジメント

○地域経営システム・「多核連携型コンパクトシティ」の在り方

- (エリアマネジメント)検討 ①ゾーニングとスキームの最適組合せ
②ゾーン特性及び各ゾーン間の連携探索
③住民と事業主体(公民協働)との合意形成

●エリアマネジメントの実施

⇒地区ごとの特徴づけと地区割・理由・課題／ハードインフラ整備の個別内容と非取組分の検討

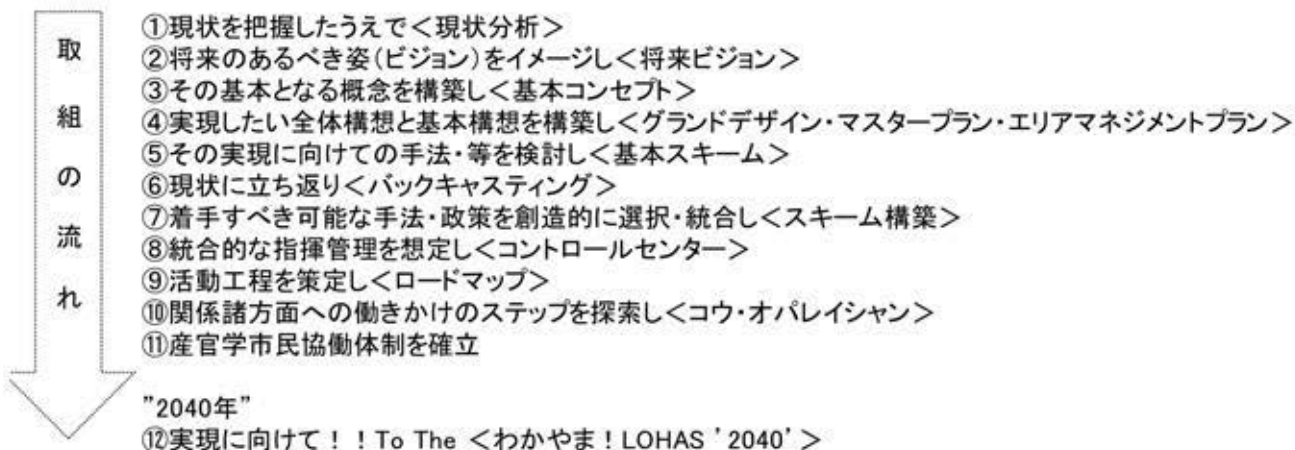
①中心域の設定②周辺域の地区割と特徴(生活中心+歴史背景)

●郊外のスマートシュリンクへ向けた具体的手法・制度の有無及び方向性

⇒切り捨てではない新たな土地利用の可能性

E: ロードマップ

■実現のためのロードプラン=取組のプロット



以上が、和歌山市が戦略的に目指していくべきまちづくりの在り方であろうと強く考えるところである。この基本的な“設計図”がきちっと構築されなければ目指すべき姿・まちを、住民をはじめ関係機関・関係者に提示することができない。序・和歌山地域経済研究機構の考えでも述べたが、この全体像は広範囲で専門性を有している。なおかつ、その取組の妥当性の理解と実現への道のりの困難さを克服していかなければならない。その意味からも内容の密度・精度はいまだ不十分といえるが、この設計図を基に、広く議論を呼び起こすことができれば幸いである。

また、非常に重要でありながら今回の報告書において触れられていない要素がある。ゾーニングプランでも表示しているが6つめのゾーンである「防災ゾーン」である。

今後予想される「東南海トラフ大地震」への対策として、あらゆる都市計画にその対策及び計画を盛り込むことは不可欠であるが、この点に関しては、次のように考えている。

一部避難地域・施設や経路に関する事項、耐震設備更新、地域住民への周知・訓練等については国や各自治体主導の計画を優先するとともに、本報告書でも提示しているが、各ゾーンにおける産官学及び住民による「地域づくり協議会」において地域住民との連携強化によりその対策を有効なものとしていくことを想定している。今後、

防災ゾーンの緊急性議論や新政策等の発動状況により、より具体的に詳細を検討する局面がこよう。その際に、改めて本報告書の内容と整合性を保ちつつ、「防災ゾーン」のゾーニング及びエリアマネジメントを構築することとしたい。

3. 目次及び執筆担当（敬称は省略）

＜はじめに＞	木下雅夫
Ⅰ. 序	
＜まえがき＞	木下雅夫
1. 必要性	木下雅夫
2. 現状	木下雅夫
3. 和歌山地域経済研究機構の考え	木下雅夫
Ⅱ. 本編	
第一章 和歌山市まちづくり戦略の必要性と方向性	
＜まえがき＞	木下雅夫
1. 和歌山市まちづくり戦略研究会のイメージと主なキーワード	木下雅夫
2. 方向性の提示	木下雅夫
第二章 地域経営システム（エリアマネジメント）の導入	
＜まえがき＞	木下雅夫
1. 土地利用のありかたを転換する	大泉英次
2. 生活者とステークホルダー・社会との整合性	中島正博
（公益性と私権及び感情）	
3. 和歌山市の歴史・文化の再評価と活用	鈴木裕範
4. 将来ビジョンの成立要素＝クリティカル・パス（C・P）の確立	木下雅夫
5. 交通インフラ・社会インフラの効率的再整備	中平匡俊
6. 統合的なマネジメントシステム及び人材確保	鈴木裕範
第三章 基本的スキームの検討	
＜まえがき＞	木下雅夫
1. 都市の縮小&成長というツイン戦略	大泉英次
2. 対象エリアごとの整理	中平匡俊
3. 土地利用転換への総合的アプローチ	大井達雄
－公共施設マネジメントを中心として－	
4. 積極的必要性と否定的事由	中裕正隆
Ⅲ. 資料編	
1. 「和歌山市都市計画マスタープラン」について	上野美咲

2. 和歌山市の「まちづくり」「地域づくり」活動事例	
(1) 和歌山市の「まちづくり」「地域づくり」活動状況	竹田 茉耶
(2) インタビュー記事	中 裕 正 隆
～2040 年に向けた和歌山市のまちづくりについて～	
3. 他市訪問報告	
<宇都宮市>	藤田和史
<松本市>	中 裕 正 隆
	中 平 匡 俊
	永 尾 吉 賞
4. 和歌山市駅開業 111 周年「市駅の鼓動・都市の記憶」について	永瀬節治
<おわりに>	木下雅夫